

3 市の人たちのくらしのうつりかわり

1 古い道具調べ

身のまわりの
古い道具を
さがして
みましょう。

古い道具をさがそう

自分の家や近所^{きんじょ}の家から、昔^{むかし}のことがわかるものをさがして、調べてみることにしました。



火ばち



わらじ



はがま



きねとうす



七輪

昔^{むかし}の道具から、昔^{むかし}の人たちのくらしのようすについても調べてみましょう。

むかし

昔と今の暮らしをくらべてみよう

古い道具が使われていたころの
暮らしのようすを
調べてみましょう。

実に^{むかし}昔の道具を使って、今のものとのちがいをくらべたりそれを使っていた昔の人たちの気持ちを考えたりしてみましょう。



せんたく板

ぎざぎざしている
ところでよこれが
おちたわ。
よくできているなあ。



ほかにも、いろいろなものが
かわってきているね。
もっと調べてみたいな。



^{むかし}
昔のせんたくは、いどから
水をくみ上げ、たらいに入れ
てからせんたく板でごしごし
あらったのよ。よごれがひど
いところは、石けんを使って
何度もこすったものよ。寒い
冬は冷たい水を使ってのしごとだったので、と
てもたいへんだったのよ。



火のし



^{すみ び}
炭火アイロン

くらしのうつり
かわりを調べて、
絵や年表などに
まとめてみましょう。

くらしのうつりかわりを調べてみよう

家の人や近所きんじよの人から聞いたことや、自分で調べたことをもとにして、くらしのうつりかわりをまとめてみましょう。



おばあさんの
子どものころのくらし
について聞いてみよう。

お母さんやお父さんは
子どものころ、どんな
遊びをしていたのかな。



乗り物のことも
調べてみたいな。



学校にも昔むかしの道具が
おいてある部屋があったよ。
それに、図書館でも調べられ
そうだね。

小田原城の近くに
きょう土文化館があるよ。
古い道具がたくさんあるらしいよ。
今度行ってみたいな。



小田原市きょう土文化館



行ってみよう



小田原市きょう土文化館は、小田原城の近くの小田原市立図書館のとなりにあります。

昔の道具やくらしのほかにも、小田原の歴史れきしや自然のことも知ることができます。

70年から100年くらい前の 小田原のようすとくらし

70年から100年
ほど前のくらしを
調べてみましょう。

きょう土文化館の人の話

このころは、町の中に田や畑がたくさんありました。今よりも農家が多く、食べものも着るものも自分の家で作っていました。今のようなきかいがなかったので、牛や馬を使って田畑をたがやしたり、田うえなどのたいへんなさぎょうは家族や近所きんじよのひとたちなどみんなで力を合わせておこなったりしていました。

子どもたちは、田や川、山などで魚や虫、鳥などをとってあそんでいました。ほかにもまりつきであそんだり、下の子の子守りをしたりもしていました。

小田原の町には電とうがつき、馬車鉄道からかわって電気鉄道が走りました。1920年には東海道線がのびて、小田原駅ができました。町の人たちは駅ができたおいおいをせい大にしたそうです。駅前には、お店や旅館がたちはじめてにぎやかになりました。パンやキャラメル、洋服などのめずらしいものも手に入るようになったそうです。



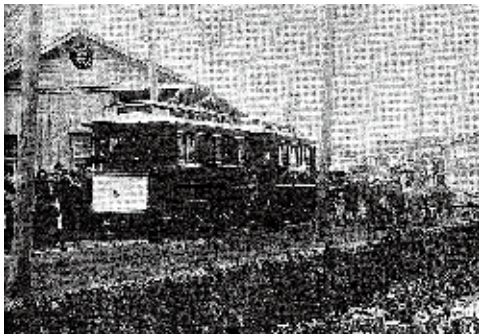
▲農作業では、馬の力を使っていた



▲田植えのようす



◀大人たちが働いている間、赤ちゃんの世話は子どもの仕事だった



▲電気鉄道が走り始めた



▲当時の小田原駅のようす

今から70年ほど前に、大きなせんそうがありました。小田原も空しゅうにあい、多くの人たちがひ害を受け、たいへんな生活をおくりました。



地いきのおばあさんの話

せんそうがはげしくなると、食べ物も生活にひつようなものも十分に手に入らなくなりました。そこで、学校の運動場を畑にしてさつまいもなどを作りましたが、それでも十分に食べることができませんでした。勉強よりも食べ物を作ったり、働いたりすることのほうが、大事に考えられていました。また、小田原もせんそうが終わる直前に空しゅうにあいました。ばくだんは学校の校庭にも落とされました。

この空しゅうで400戸くらいの家がやかれてしまいました。

みんな1日1日をせいっぱい生きていました。今のように、毎日が平和なことは、とても幸せなことだと思います。



空しゅうのあと



はたらく学生

せんそうの時代を今も伝えるもの

小田原のまちには、せんそうのおそろしさ^{きしゅう たま}を今もわたしたちに教えてくれるものが残っています。そのひとつが市内にある機銃の弾のあとがのこる旧青橋（小田原城の西がわの東海道線などの線路の上にかかる橋）の橋げたです。鉄でできた橋げたをかんたんにつらぬいているようすはせんそうのおそろしさを今も伝えています。

みなさんの地いきにも、ぼうくうごうのあとや石碑などせんそうの時代を伝えるものがあるかもしれません。



30年から60年くらい前の 小田原のようすとくらし

30年から60年ほど
前のくらしを
調べてみましょう。

おじいさん、おばあさんが子どものころ（60年くらい前）の小田原のようすとくらし



おじいさんの話

せんそうが終わり、生活をよりよくしようと、当時の人たちは、一生けん命にはたらいたんだ。

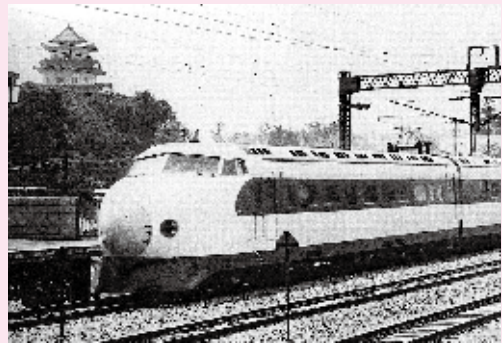
そのおかげで、人々のくらしは豊かになってきたんだよ。

小田原にも大きな工場がたてられるようになって、しごとのために小田原にひっこしてくる人もふえたんだ。

それから、昭和39年(1964年)になると、新かん線が通って、小田原にも停車するようになったよ。たくさんの人が小田原に集まるようになったんだよ。

そのころの子どもたちは、外で遊ぶことが多かったなあ。野球をしたり、メンコやベーゴマで遊んだり、近所の子どもたちが、みんないっしょに遊んでいたものだよ。

電気せい品がくらしの中に出てきて、白黒テレビを初めて見たときはびっくりしたなあ。



お父さん、お母さんが子どものころ（30年くらい前）の小田原のようすとくらし



お父さんの話

冷ぞう庫やせんたくき、カラーテレビなどのほかにも、くらしを便利にしたり、気持ちよくすごしたりするためのきかいが、いろいろと家の中にそろうようになったんだよ。

子どもの遊びにもきかいで作られたものがふえてきて、コンピューターゲームがはやって、むちゅうになって遊んだなあ。昔よりも家の中で遊ぶことが多かったかもしれないね。

小田原のまちでは、小田原駅の東口がせいびされて、小田原地下街もできて、多くのお店やお客さんと駅のまわりはとてもにぎわっていたよ。



2

地いきの人びとが受けついできた文化財^{ざい}と年中行事

わたしたちのまちの「たからもの」は、どのようにして守られてきたのでしょうか。

地いきの「たからもの」を大切にする人たち

お祭りで聞こえてくる「おはやし」は、市内のさまざまな地区で受けつがれています。

多古地区（足柄小学校学区）でも、「小田原ばやし多古ほぞん会」の人びとが、おはやしを大切に守り続けてきました。



わたしたちの地区では、どんなお祭りがあるのかな。



おはやしは、お祭りの山車の上でも、えんそうされていたよ。





ふえ
笛の音をじょうずに
出すのは、むずかし
そうだね。

た こ こう みん かん
多古公民館では、月に3
回ほど小学生や中学生、高
校生が集まって、たいこや
ふえの練習をしています。

えんそうのしかたは、おはやしをえんそうできる大人の方が教えてくれます。ほぞん会の人びとは、地いきのお祭りのほかにも、さまざまなも
よおしものにさんかしています。



おはやしを教えている^{しも だ}下田さんの話

わたしは、小学生の時にたいこを始めました。おはやしは、
地いきの先ばいから習っておぼえました。今は、わたしが教
える役です。

練習会では、子どもたちと向かい合っ^{たい}てたいこのリズムを
教えています。たいこがたたけるようになった上学年の子ど
もには、^{ふえ}笛のえんそうもおぼえてもらいます。おはやしをおぼえるには、^{ふえ}笛のメロディー
が大切なのです。ほぞん会では、大人も子どもも、いっしょになって長い^{でん とう}伝統のある「小
田原ばやし」を守っています。



人びとの生活が^か変わってきて、おはやしやお祭りに^{たい}対する考え方も、むかしとは^か変
わってきています。これから大人になっていく子どもたちが、地いきで守られてき
た「たからもの」に、きょう味をもってくれるとうれしいですね。

ほぞん会の子どもの話

1年生のときから、上の学年のお兄さんお姉さんた
ちのえんそうを見ながら、たいこのたたき方をおぼえ
てきました。おはやしは、いろいろな曲があっ^{ふえ}て、む
ずかしいなと思うときもあります。とくに、^{がく ふう}笛のえん
そうをするには、長い楽譜をおぼえなくてはいけない
ので、たいへんです。



でも、お祭りや大きな発表会で、練習したことがきちんとできると、ほっとします。
自分たちのえんそうをたくさんの人にきいてもらえたときには、とてもうれしいです。

わたしたちの住んでいる
ところでは、どんなもの
を大切に守り、伝えてき
たのでしょうか。(行事、
お祭り、おどりや歌)

市の人たちが守り、伝えてきたもの

田植え歌 (栢山)
かやま



小田原ばやし (多古)
たこ



こんなにたくさん
あるんだね。

箱根馬子唄・長持唄 (入生田)
はこね まごうた ながもち うた いりゅうだ

地蔵尊 (板橋)
じぞう そん いたばし



鹿島おどり (根府川)
かしま ねぶかわ



だるま市^{いらいずみ} (飯泉)



傘焼きまつり^{かさや} (下曾我^{しもそが})



寿獅子舞^{ことぶきし} (下曾我^{しもそが})



相模人形しばい^{さがみ} (下中^{しもなか})



奉射祭^{ぶしゃさい} (小船^{おふね})



大漁木遣歌^{たいりょうきやうた} (山王^{さんおう})



みんな大切にして、
これからもずっとつづ
けていきたいね。



3

豊かな小田原を次世代に残すために

わたしたちの市を、これからどうしていけばよいかをいっしょに考えましょう。

市民とともに歩みながら

市では、市民と手を取りあって、より豊かな未来を実現するために、『総合計画』をつくって、計画的に仕事を進めています。

市役所の人の話

「総合計画」では、4つのまちづくりの目標を示しています。

①いのちを大切に作る小田原

生涯を通じ安心していきいきとくらすことのできるまち、子どもたちが地いきで元気にたくましく成長できるまちをめざします。



②希望と活力あふれる小田原

小田原の魅力を広く情報発信していくことで、他の市や町と小田原とで、たくさんの人が行き来されるように取り組めます。また、地いきの中で、さまざまなものがつくり出されたり、売り買いされたりする、活気にみちたまちをつくります。

③豊かな生活基盤のある小田原

生活にうるおいと安らぎのあふれるまち、便利でくらしやすいまち、さらに歴史的な町並みや建物などが大切にされたまちをつくります。

④市民が主役の小田原

市民の考えや願いが、しっかりと市の取り組みに反映されるまちをめざします。

『市民の力で未来を拓く希望のまち』

この言葉は、次の時代に向けて、持続可能なまちづくりを始める私たちの合言葉です。地いきを支え、地いきを元気にする主役は市民のみなさんです。一人ひとりの命が大切にされながら、まちづくりの主役となり、活力にあふれ、未来への安心と希望にみちた住みよい小田原をつくっていきましょう。



私たちのまち・小田原をより良くしたいという市民の思いを具体的な形にしてまとめたものが計画になっているんだね。

未来の小田原が今より豊かになるように、私たちにも何ができるのか、小さなことでも良いので考えてみよう。



①放課後子ども教室・放課後児童クラブ

地域のみなさんにも参加してもらって、小学生の放課後の安全な居場所をつくっています。



②リニューアルした小田原城天守閣

地震に強く、展示もより分かりやすくなった小田原城天守閣には多くのお客さんが来ています。



③小学校屋上の太陽光発電屋根貸し事業

小田原でつくった再生可能なエネルギーで自給できるまちを目指しています。



④地域コミュニティ組織の会議

身の回りにある様々な問題に、地域の皆さんが主役になって市と一緒に取り組んでいます。

「持続可能」ってなに？

「持続可能」とは・・・「〇をし続けることができる」ということ。

「私たちがずっと地球に住み続けることができる方法で行動しよう」と、2015年に世界193の国で、17の目標（SDGs）を作りました。

小田原市が総合計画でこれまで取り組んできた持続可能なまちづくりは、2019年に国からSDGs未来都市として認められました。

